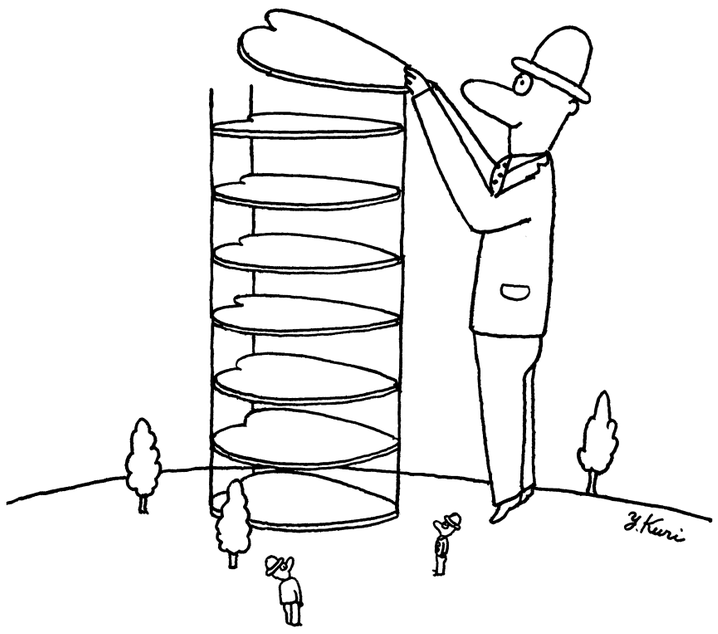
私たちが築くのは、
"こころ"です。



今、人は地球について考えています。
そして、自然のことを想っています。
地球があって、緑にあふれ、人々が生活する。
私たちはそんな基本的なことから考えたい。
私たちのふるさと・地球にやさしい技術の確立。
熊谷組の変わらぬテーマです。

――人と地球の未来を考える――
KUMAGAI 熊谷組
本社●〒162-8557 東京都新宿区津久戸町2-1 TEL03-3260-2111
ホームページ URL http://www.kumagaigumi.co.jp

安藤ハザマ

人と技術で、未来に挑む。

私たち安藤ハザマは、確かな技術と豊富な経験・ノウハウをもとに、
安全・安心で、高品質なものづくりを実践し、さまざまな形で人々の暮らしを支えています。
これからも、社員一人ひとりの情熱と、時代に先駆けた技術力を掛け合わせ、
新たな価値を創造し、豊かな未来の実現に挑戦し続けます。

株式会社 安藤・間
東京都港区赤坂六丁目1番20号　TEL：03-6234-3600(代表)
http://www.ad-hzm.co.jp/

社会インフラ維持管理・更新への取り組み

土木学会　社会インフラ維持管理・更新の重点課題検討特別委員会

高度経済成長期に集中的に整備されてきたわが国の社会インフラは、高齢化が進展しており、これまでも各種の損傷や事故が報告されている。社会インフラの役割が我々の生活や社会・経済活動の基盤であることをかんがみると、その高齢化が今後も進展し、適切な維持管理がなされないならば、これは安全で豊かな国民生活を維持し、活力ある社会経済を持続的に発展させることが困難になることを意味する。国民の重要な資産である社会インフラの維持管理・更新を合理的かつ体系的に実施することは、土木技術者の重要な役割である。公益社団法人の土木学会では、産学官の協働でこの課題に取り組んでいる。

重点課題を整理　特別委員会設置

2012年12月に発生した中央自動車道笹子トンネル天井板落下事故を契機として、土木学会は産学官の委員から構成される「社会インフラ維持管理・更新検討タスクフォース」（社会インフラTF、委員長＝橋本鋼太郎土木学会会長）を同月に設置した。

社会インフラTFは、「社会インフラ維持管理・更新の重点課題に対する取組み戦略」を7月に公表し、その中で①社会インフラの維持管理・更新に関する知の体系化②人材確保・育成③制度の構築・組織の支援④入札・契約制度の改善⑤国民の理解・協力を求める活動―の5点について土木学会として重点的に取り組む課題とした。

同戦略により期待される成果の例としては、社会インフラの維持管理・更新に関する知の体系化によりテキストブックを作成し、「インフラメンテナンス工学」を確立させることが挙げられる。また維持管理・更新を〝ものがたり化〟することでメンテナンスを魅力あるかつ誇りに思える仕事として国民の理解を求めることなどがある。

戦略の作成にあたっては、国土交通省の諮問機関である社会資本整備審議会と交通政策審議会の「社会資本メンテナンス戦略小委員会」での調査審議のほか、日本建設業連合会内の「インフラ再生委員会」での議論を参考とした。また分野別の専門家による維持管理・更新に関する事例紹介により実態を把握し、議論に役立てた。

これらの動きにより土木学会では、社会インフラの維持管理・更新の課題を学会活動の中心的な課題と位置付け、社会インフラTFに代わる「社会インフラ維持管理・更新の重点課題検討特別委員会」を7月に設置。学会としてより組織的かつ体系的な取り組みを推進することとした。特に分野横断的な課題には、土木学会内の委員会の連合や支部との協働により、学会の産学官の枠組みを生かしていく。

メンテナンスの方法論を体系化

土木学会には産学官の専門家から構成される委員会が数百あり、専門的な調査研究に取り組んでいる。また全国に8支部があり、それぞれの地域に貢献する活動が進められている。ここでは維持管理・更新に関する委員会と支部の活動の事例を紹介する。

土木学会では社会インフラの維持管理・更新の課題に対して、これまでにも横断的な取り組みが行われている。その代表例として01年から04年の「社会基盤メインテナンス工学連合小委員会」が挙げられる。

この委員会ではコンクリート、鋼構造、構造工学の各委員会の連合により、分野別に発展したメンテナンス技術に共通する方法論を見いだすことで体系化に取り組んだ。その代表的な成果としては『社会基盤メインテナンス工学』（05年3月出版、同小委員会編、東京大学出版会）がある。

これら委員会の最近の取り組み事例として、コンクリート委員会ではコンクリート標準示方書「維持管理編」を6年ぶりに9月に改訂する。今回の改訂では、現在の2部構成から「本編」「標準」「劣化機構別維持管理」「事例」の4部構成とし、基本的な考え方から劣化機構ごとの維持管理の方法や手順までが記載される。

また同委員会の活動では、経年劣化したコンクリート構造物の点検・対策の優先度を工学的に決定する技術や枠組みの構築のため、体系的な検討が実施されている。点検・対策の順位付けが適切に行われることにより、維持管理の効率化に資するものと考えられる。

さらに建設マネジメント委員会では、効率的で効果的な社会資本の運用・管理ができる「アセットマネジメント」の意義・導入の考え方を示した『アセットマネジメント導入への挑戦』を05年に出版しており、社会インフラの管理者や民間機関の方々の実用書として役立っている。

12年には「包括的道路修繕・維持管理PFIに関する調査研究報告書（中間報告）」をとりまとめている。性能規定型道路維持工事、地域維持型契約方式などの国内事例や、英国での道路修繕・維持管理に民間資金を活用した社会資本整備（PFI）の先駆事例などを紹介した。本報告書はPFI事業を導入するうえでの参考となるものと期待される。

5つの重点課題

重点課題1　社会インフラ維持管理・更新の知の体系化
- 「インフラメンテナンス工学」を定義づける
- 維持管理・更新に関する技術開発の方向性を含む調査研究を推進

重点課題2　人材確保・育成
- 人材確保・育成のための検討（学校教育、継続教育、および高度技術者育成）
- 技術力向上・研鑽の機会を提供
- 資格の整理・総合化を推進

重点課題3　制度の構築・組織の支援
- マネジメント手法
- 建設から維持管理・更新までの技術的ノウハウが効率的・効果的に活用される組織の在り方
- 地域の社会インフラ維持管理の支援組織の体制と役割

重点課題4　入札・契約制度の改善
- 民間が有する技術を工事規模だけでなく、技術の特徴に応じて活用しやすい調達制度
- PPP/PFIなどを活用した包括的維持管理プロジェクトの契約方式のガイドラインの作成

重点課題5　国民の理解・協力を求める活動
- 社会インフラの整備と管理状況に関する評価
- メンテナンス・ワールドの「ものがたり化」による魅力の向上

駅をつくる、道をつくる、街をつくる
現場のチカラ

京成日暮里駅

TEKKEN 信用と技術の 鉄建
〒101-8366 東京都千代田区三崎町 2-5-3　Tel.03-3221-2152

150th Anniversary
Thanks for everything

「ありがとう」の心をこめて。

私たち佐藤工業は、創業以来お客さまからの信頼を第一に考え、
時代が求める最新の技術で社会に貢献してきました。
いま、私たちは、「ありがとう」の心をこめてお客さまの信頼とご期待に応えるとともに人と自然の共生のため全力で取り組んでいます。

― 総合建設業／創業1862年 ―
佐藤工業株式会社
http://www.satokogyo.co.jp